

主に聞く祈り

主が聖書以外に個人的に語ってくださる方法

- 1、御自分の声（1列王 19：13－18、ヨブ 38－40：1）
- 2、ビジョン（ダニエル 2、使徒 10：11－17）
- 3、御霊の内なる声（ヨハネ 16：13、1ヨハネ 2：27）
- 4、他の人（2サムエル 12、ガラテヤ 2：14－18）

しかし、私たちは主以外のさまざまな声に影響を受けてしまうことがあります。どんな声に耳を傾けてしまうでしょう？

- 1、_____ 自分の声
- 2、_____ サタンの声
- 3、_____ 世の声

どうしたら主からの声だと見極めることができるでしょう？

- 1、聖書と一致するか
- 2、内なる聖霊様が下さる平安があるか
- 3、他のクリスチャンにも祈ってもらう
- 4、主からの声だと思ったらそれに見合う聖句を与えてくださいと祈る

“Learning to listen to God is a process that starts awkwardly, develops slowly in the beginning, but then grows and grows until it is hard to see how you could have ever gotten along without it.” Dallas Willard, *Hearing God* (Downers Grove, IL: InterVarsity Press, 1999)

主の声を聞く祈りのステップ

主は本当に自分に語ってくださるだろうか、という疑いがありますか？ 主はあの人には語ってくださるけれど、私には語ってくださらないという思いがあればそれは不信仰の罪です。「門番は彼のために開き、羊はその声を聞き分けます。彼は自分の羊をその名で呼んで連れ出します。彼は、自分の羊をみな引き出すと、その先頭に立って行きます。すると羊は、彼の声を知っている所以他について行きます。」(ヨハネ 10:3-4) だれでも主の声を聞くことができますから、悔い改めて主の声を待ち望みましょう。

- 1、主の前に静まります。
- 2、サタンの妨げを退ける。このように祈ってみてください。「イエス様の御名によって命ずる。この時間を邪魔しないようにこの場から立ち去りなさい。」
- 3、主の御臨在を招きます。「主よ、この場に豊かに臨んでください。」と祈ったり、短く賛美するといいいでしょう。
- 4、主に心を探っていただきます。もし罪を示されたら告白して赦していただきます。
- 5、主に語っていただきます。手始めに「主よ、お話してください、私は聞いています。」と祈ってみるといいでしょう。あるいはもっと具体的に「主よ、最近の私の主との関係について（私の最近感じている葛藤について）、何かありましたら、どうかお話してください。」
- 6、静まって待ちます。
- 7、心に浮かんだこと（思い、ビジョン、ことば）をノートに書き留めます。

心のいやし

イザヤ 61：1-3 「神である主の霊が、わたしの上にある。主はわたしに油をそそぎ、貧しい者に良い知らせを伝え、心の傷ついた者をいやすために、わたしを遣わされた。捕われ人には開放を、囚人には釈放を告げ、主の恵みの年に、われわれの神の復讐の日を告げ、すべての悲しむ者を慰め、シオンの悲しむ者たちに、灰の代わりに頭の飾りを、悲しみの代わりに喜びの油を、憂いの心の代わりに賛美の外套を着けさせるためである。彼らは、義の樅の木、栄光を現す主の植木と呼ばれる。」

主が約束なさること：

- 1、私たちの傷ついた心を_____。
- 2、知らない内に身につけた自己防衛のわざや捕われている思いからの_____。
- 3、（恐れ、絶望感、うつ状態などといった）暗い精神状態からの_____。
- 4、_____の代わりに慰め、喜び、美、賛美を与える。

心のいやしの4つの大前提：

- 1、私たちが心に受ける傷は**私たち自身の罪**（マタイ 26：75）、**他の人が私たちに犯した罪**（マタイ 18：6）、あるいはこの2つが合わさった結果である。
- 2、罪は2種類ある。すべきでないことをした罪（例：親の子供に対する虐待）、すべきなのにしなかった罪（例：親が子供を世話をすべきだったのにしなかった怠慢）。
- 3、クリスチャンになったからといって、自分の罪や他人の罪による影響が**自動的に**消去するわけではない（罪自体は赦されたけれど）。

子供のころ受けた心の傷は、人格の形成において以下の4つの分野に大きく影響する。1）私たちのアイデンティティー、2）人との信頼関係、3）人生をどう生きるか4）困難に対してどう対処するか。

心のいやしの原則：

1、現在は**過去**を反映している。

何度も繰り返し起こる怒り、絶望感、恐れなどといった心の痛みは現在の状況に反応して起こっているのですが、実は子供のころに経験した何かを反映する鏡の役割を果たすことがあります。この心の深いところを主に取り扱っていただきいやしていただかなければ、たとえ表面上の問題が一時的に解決したとしても別の状況でまた同じ心の痛みが起こってきます。

2、傷つけられた際、ある**嘘**が心に入り込んでしまうことがあり、それが私たちを捕われの身にしてしまう。

子供は状況を客観的に解釈することはできません。自分なりの解釈をしてある嘘を信じてしまうことが多々あります。

「もしあなたがたが、わたしのことばにとどまるなら、あなたがたは本当にわたしの弟子です。そして、あなたがたは真理を知り、真理はあなたがたを自由にします。」（ヨハネ 8：31-32）

真理が人を自由にするとしたら、その反対に、嘘は人を縛り付けてしまいます。そして嘘は心の隠れたところに潜んでいます。またこの嘘は大人の理性で解明することではありません。嘘のルーツを主に示していただかなければなりません。

3、真理は聞くだけでなく**体験**しなければ開放につながらない。

“Every time we separate the teaching of the truth from the experience of the truth, we make it irrelevant. It is only when truth is experienced that it will truly set us free.” David Ferguson